

毎日を楽しみながら、子どもたちから
尊敬される農家になりたいです。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

両親が農業を営んでいたため、幼いころは自然と農作業を手伝う機会が多くありました。しかし、成長するにつれて手伝う機会は減り、継ぐ意思もなかったことから、高校卒業後は住宅メーカーへ就職しました。仕事を始めて5年が過ぎ、次のステップを考えていたタイミングで、父から農地を拡大する話を聞きました。

もともと農業に携わる気はなく、長いブランクもあったため不安はありました。しかし、自分の裁量で時間を調整しながら働ける点に魅力を感じたこと、そして何より、社会人経験を経てから就農した父の姿が大きな後押しになり、24歳で農業の道に進むことを決めました。



2 仕事をするうえで大切にしていること

作物を丁寧に育てることを大切にしています。特に防除には気を配っており、農薬の量や使い方には細心の注意を払っています。防除に力を入れ始めた頃は農薬の種類すらわからず、覚えるだけでも大変でしたが、周囲の農家から情報ももらいながら、自分なりに試行錯誤を重ねてきました。そうした努力が実り、防除の効果が表れて良い作物を収穫できたときには大きな達成感を感じます。

3 目指す農家像

毎日を楽しみながら、子どもたちから尊敬される農家になりたいです。農業に携わって9年目になりますが、気温や降水量などの条件は毎年異なり、二度として同じ年はないため、毎日が学びの連続です。正解のない仕事だからこそ難しさもありますが、その分経験が積み重なり、農家としての「勘」も少しずつ鋭くなつてきていると感じています。

子どもたちにも、働く父の姿を見て育ってほしいと思っています。農家という仕事に対して「かっこいい」「楽しそう」と感じてもらえるように、これからも日々学びながら、前向きに農業に取り組んでいきたいです。

4 青年部活動について



就農と同時に青年部へ仮入部したものの、当時はあまり魅力を感じられませんでした。しかし28歳のとき、地元を知り合いに声をかけてもらったことをきっかけに、改めて入部することにしました。実際に活動に参加してみると、人とのつながりが一気に広がりました。日々の農作業でわからないことや相談したいこと、ちょっとした雑談まで気軽に話せる仲間ができたことは、大きな支えになっています。

今年からは栗沢支部の支部長を務めることになりました。年下の盟友も意見を言いやすく、風通しの良い雰囲気づくりに心掛け、全員が楽しく活動できる青年部を目指して、今後も前向きに活動に取り組んでいきたいです。

人物 memo

栗沢町北斗
柳谷 宏人 さん(33歳)

父の純一さん、母の美貴子さん、祖父の勇さん、祖母のミツ子さんの家族5人で約67haの農地に水稲や小麦、大豆、子実コーン、加工用トマトを栽培。高校を卒業後は住宅メーカーで勤務していましたが、父から農地を拡大する話を聞いたことをきっかけに、24歳で農業の道へ進みました。

現在は青年部栗沢支部の支部長を務め、充実した生活を送っています。